

中学校 外国語（英語）科 学習指導案

〇〇中学校
授業者 〇〇 〇〇

- 1 日時 令和〇年〇月〇日(〇) 第〇限
- 2 場所 第2学年〇組教室
- 3 学年・組 第〇学年〇組（〇名）
- 4 単元名 Lesson 8 Water Problems （ONE WORLD English Course 2 教育出版）
- 5 単元の目標 世界の水問題について、他者の意見を聞いて感想や考えを述べたりすることができる。
- 6 教材観

この単元では、世界の水問題を題材に取り上げている。単元前半では、シンガポールやバングラデシュでの水問題について紹介されている。シンガポールでは水を輸入していること、バングラデシュの人々が雨水を利用していることに興味を持った登場人物が、クラスメイトなどに質問しながら水の問題について意見を述べる、という場面設定である。単元後半では、アフリカの水問題をとりあげ、世界の水問題やSDGsについても理解を深める内容となっている。単元末の言語活動として、教科書ではクラスでアンケートを取り、プレゼンテーションで発表するというタスクになっているが、日本と世界の水問題を比較しながら、生徒同士でやり取りができるよい機会だと考え、今回はディスカッションを行うことにした。

- 7 生徒観 省略

- 8 指導観

学習指導要領の取り扱いとしては、中学校学習指導要領（平成29年3月告示）の「話すこと（やり取り）」の領域になる。言語材料としては、新出事項として「受け身」「付加疑問」、既習事項として「比較表現」を取り扱う。単元を通し、比較表現を使って日本、もしくは自分たちと教科書に出てくる国の人々との比較を英語で伝える力を育てるとともに、内容や場面に応じて適切に受け身や付加疑問、比較表現を使うことで、表現に幅をもたせる。帯活動として、単元目標達成のためのスモールトークやチャットを盛り込み、毎時間継続して練習させたり、必要な表現は何かを考えさせたりして、既習事項の定着を図る。中間評価を充実し、「どう表現すればよいか分からないこと」をクラス全体で共有し、自分たちが伝えなかった表現について、既習事項を想起しながら何とか英語で表現する機会を増やすことで、英語による表現の幅を広げていくことを重視する。また、班で協力してグループワークをする過程で、本文から必要な表現を見つけ出し、自己表現につなげる活動を設定したり、相手によりよく伝わる表現方法について工夫させたりする。以上のような指導の工夫を通して、本単元で生徒に身につけさせたい力を育んでいく。

9 評価規準（「話すこと（やり取り）」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・受け身や付加疑問文に関する事項を理解している。（知識）</p> <p>・世界の水問題について聞いたり読んだりしたことについて、自分の気持ちや考えを、受け身や付加疑問文などを用いて伝え合う技能を身につけている。（技能）</p>	<p>友だちの意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、世界の水問題に関して、データを用いて自分の意見や感想、自分ができることを伝え合っている。</p>	<p>友だちの意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、世界の水問題に関して、データを用いて自分の意見や感想、自分ができることを伝え合おうとしている。</p>

10 判断基準（「話すこと（やり取り）」の判断基準

	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
知識・技能	受け身や付加疑問文などを用いてほとんど誤りがない正しい英文で話すことができている。	多少の誤りが見受けられるが、受け身や付加疑問文などを用いてコミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができている。	スモールトークやペアワーク等の場面で、受け身や付加疑問を含むやり取りを指導者と行いながら、これらの言語材料の定着を図る。
思考・判断・表現	データを用いて水問題における自分なりの解決方法を整理し、簡単な語句や文を用いて具体的に伝えたり、相手の意見を聞いて感想を述べたり、自分ができることについてやりとりしている。	データを用いて水問題における自分なりの解決方法を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の意見を聞いて感想を述べたり、自分ができることについてやりとりしている。	指導者が、水問題についてモデルとなる解決方法についてのやり取りを進めるとともに、指導者がモデルとなる簡単な語句や文を用いることで、その生徒が表現しやすいようにする。
主体的に学習に取り組む態度	データを用いて水問題における自分なりの解決方法を整理し、簡単な語句や文を用いて具体的に伝えたり、相手の意見を聞いて感想を述べたり、自分ができることについてやりとりしようとしている。	データを用いて水問題における自分なりの解決方法を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の意見を聞いて感想を述べたり、自分ができることについてやりとりしようとしている。	今までの学習を振り返らせたり、クラスメイトの考えを参考にさせたりする。

11 単元の指導と評価の計画（本時は**第7時**）

時間	ねらい（■）・主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1 2 3	<p>■単元の目標を共有する。</p> <p>■アジアやアフリカの水問題に関する動画を見て、自分の意見や、感じたことを伝え合う。</p> <p>①単元目標を理解し、自己目標を設定する。</p> <p>②教科書の対話文を読み、考えたことや、感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>③アフリカの水問題に関する動画を見て、メモを作成し、意見や、感じたことをペアで伝え合う。</p>	活動させているだけにならないよう十分留意する。	確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を	第2～第8時の学習の振り返りは適宜行わせる
4 5 6	<p>■教科書や、水問題に関する資料を読み、ペアやグループで感じたことや、考えを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文を読み、水問題について、感じたことや考えをペアやグループで伝え合う。</p> <p>②雨水と地下水のメリットとデメリットについて、シンキングツールを使ってまとめ、グループで伝え合う。</p> <p>③フィンランドの環境教育（3R）に関する資料を読み、マッピングを作成して即興でグループ交流する。</p>				
7 [本時] 8	<p>■パフォーマンステストに向けて、資料（データ）やメモを作成し、グループで伝え合う。</p> <p>①自分が日常生活において無駄にしていると感じていることを踏まえ、水問題を改善するために自分ができることを、ペアで伝え合う。</p> <p>②より説得力を持たせるため、水問題を改善するために自分ができることに関連した資料（グラフやポスターなど）を使って、グループで伝え合う。</p>				
9 10 11	パフォーマンステスト	○	○	○	「注」①、②、③参照
後日	パフォーマンステスト	○			「注」④参照

注：

①教員は1回につき、4人（2ペア）を観察し、本課の判断基準（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）に照らして評価する。十分な発話がない生徒がいた場合には、新しいペアにおけるやり取りを観察する。

②本単元では「話すこと [やり取り]」であるため当該領域の言語活動により本単元で扱う言語材料を用いて自分の考えなどを伝え合う技能を身に付けているか否かを評価する。しかし、特定の言語材料の使用を促し、当該言語材料を含め既習表現の使用の正確さを評価するには十分とは言えないかもしれない。そのように工夫しても特定の言語材料を使用させることが難しい場合も考えられるため、後日、「知識・技能」を図るためのパフォーマンステストを実施する。

③第8時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにする。「知識・技能」の評価については、受け身や付加疑問文の使用がみられなかった場合、後日実施のパフォーマンステストの観察結果を加味することが考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については第9～11時だけに限らず日々の授業における言語活動への取組状況を勘案する。

④以下のとおり評価する。

- ・1回につき2人（2ペア）でやり取りをさせる。指導者はそのやり取りを観察し、「知識・技能」の判断基準に照らして評価を行う。やり取りの前に、“You learned about rainwater or groundwater. For example, how is groundwater used? Which is better, rainwater or groundwater to solve water problems? Let’s talk with each other.”などのトピックを用意しておく。やり取りを進めながら、「知識・技能」について評価する。この題材は、第5時で学習した「雨水や地下水におけるメリット、デメリット」の内容にも関連させている。

11 本時の展開

（1）本時の目標（第7時／第11時）

日常生活における自分自身の水の使い方を振り返り、水を節約するためにできることを伝えあうことができる。

（2）本時の評価規準、判断基準

指導に生かす評価は行うが、記録に残す評価は行わない。

（3）本時の学習過程（第7時）

	生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・前時の復習『3R』について、指導者の話を聞きながら、指導者の質問に英語で答える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>I reduce the amount of electricity in my house. I reuse paper. I can use both sides of the paper. I recycle eggshells and use them for my plants.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で扱った「フィンランドの環境教育(3R)」に触れ、どんなものを reuse, reduce, recycle できるのか ペアでやりとりし、メモをさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>What can you reuse (reduce / recycle)? I think we can reuse plastic bottles. We can buy them at supermarkets or convenience stores.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で練習した I reuse/reduce, recycle の生徒の積極的な発言を促す。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・Teacher Talk を聞いて内容を理解しながら、自分自身が日常生活でどのような意識で水を使っているかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者からクラス全体に投げかけられた質問に答える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・Yes, you do. You waste too much water. ・Yes, but me too. など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・Teacher Talk を生徒に聞きながら、状況に応じて指導者とやりとりをし、既習表現を定着させていく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Last week, I was really surprised because the cost of using water at home was very high. Then, I noticed the reason. When I take a bath, I don't stop the shower. I wash my head or body in the shower. Do you think I waste too much water?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が自分自身の生活の中で普段、無駄なことをしていると感じたことを伝えながら、生徒たちの生活から、自分がどのような意識で水を使っているかということについて感じていることをできるだけ多く引き出し、クラス全体に共有するようにする。

・生徒同士で“Using water”と言うトピックを基に、指導者の質問を踏まえてやり取りをする。

・My brother uses water to wash his car. He likes washing his car. How about you?
・My parents uses water for the flowers in the garden. など

・中間評価の場面を通して、次の3点についてクラス全体で考える。

- ① 「伝えなかったけど伝えられなかった表現」を共有し、クラス全体でどのように英語で表現すればよいかを考える
- ② 自分が思いつかなかった生活の場面をクラス全体で共有し、自分の意見として活用するきっかけとする。
- ③ 相手にうまく伝えようとするときのポイントについてクラス全体で共有し、そのポイントで自分もこれから使うように意識する。

・中間評価で学んだこと、気づいたことを踏まえ、ペアを変えてもう一度同じやり取りを行う。

・指導者のまとめを聞く。

・指導者の質問について、生徒たちでやり取りをする。

・When I go home and gargle, I save water by stopping the tap. など

・生徒たちに、テーマ（Using water）となるような質問を投げかけ、ペアでやり取りをさせる。

・How do you and your family use water in daily life? The Topic is “Using water.” Please talk with your partner.

・ペアワークの際、単語だけでやりとりをしている生徒を中心に、机間指導で声をかけ、文でのやりとりを意識させる。

・中間評価の指導で、次の3点に留意する。

- ① 生徒に既習事項を想起させながら、英語で伝えられる表現について考えさせる。

・例)
「水を出しっぱなしにしている」という表現を英語で何というのか?
→ I keep the tap running. など

- ② クラス全体で、日常生活において水を使う場面はどれくらいあるかを共有させ、生徒たちのアイデアを膨らませる。

- ③ やり取りを続ける際に、工夫しているペアを取り上げ、何がよかったのかを全体で考えさせる。

・指導者は机間指導をし、1回目のやり取りとどう変容しているかという点に着目し、生徒たちを観察する。

・指導者は、生徒たちが交流していた内容をクラス全体で共有する。

・水を使う場面について、具体的な例を踏まえて、次は「水を節約等していくために、自分ができること」について生徒同士でやり取りをさせる。

Water is used in many ways. But using a lot of water is not good. Then, can you talk about how you and your family “waste” or “save” water? Please make pair.

<p>展開 40分</p>	<p>・中間評価を通して、以下の3点について考える。</p> <p>① 「伝えなかったけど伝えられなかった表現」を共有し、クラス全体でどのように英語で表現すればよいかを考える</p> <p>② 自分が思いつかなかった「節約に対するアイデア」をクラス全体で共有し、自分の意見として活用するきっかけとする。</p> <p>③ 相手にうまく伝えようとするときのポイントについてクラス全体で共有し、そのポイントを自分もこれから使うように意識する。</p> <p>自分がなぜその取組みをするのか、日常生活で水について感じていることについて、全体で共有するとともに、発表の方法として良かった点なども考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">I knew that many people in the world suffer because there is not enough water, so, I want to save water. For example, I'll say to my family "Please don't use a lot of water, for example when we take a bath or wash dishes, because water is very important to our world.</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>・机間指導中に、生徒たちとのやりとりに応じて、For example? How about taking a bath? You mean..., don't you?などの問いかけや 確認をして、発話を促す。</p> <p>・中間評価の指導における留意点は、原則前述と同じ。</p> <p>・本時のまとめとして、できるだけ多くの生徒に発表させるとともに、モデルとなるような生徒を指名し、どのような点が良かったのか、または分かりやすかったのかも考えさせる。</p>
<p>まとめ・振り返り 5分</p>	<p>今日のまとめとして、自分が話した内容を、ワークシートにメモする。</p> <p>振り返りシート記入。</p>	<p>「水を節約するためにできることについて、相手にわかりやすく伝えるために、工夫したこと」を振り返りシートに記入する。</p>